

(19番 小暮議員登壇)

○19番(小暮博志) 次の2件に関して一般質問をいたします。よろしくお願ひいたします。

1件目は介護保険事業に関して、2件目は新型コロナウイルスへの対応についてであります。

まず最初に、1件目の介護保険事業に関してお聞きいたします。介護保険事業は、約30%の国民が関係する大きな事業であり、令和3年度予算規模も一般会計の約23%、115億円と大きなものとなっています。このような事業の将来を見たとき、年齢65歳以上の人の高齢化人口が増え、事業費の約75%を負担する働いている人の生産年齢人口が減り、この介護保険事業の大変さを危惧するところでもあります。また、令和22年度、2040年度頃が最も厳しいと予想しているようでもあります。

ここでお聞きいたします。将来厳しいと予想される令和22年度時期の第1号被保険者の介護保険料は、どのようになっていると想定しているのか、お聞きいたします。

○副議長(横田 誠) 当局の答弁を求めます。

健康医療部長。

○健康医療部長(川崎光子) 令和2年度に第8期介護保険事業計画を策定する中で、令和22年度の介護保険料についても推計を行っておりまして、保険料基準額は8,738円と算出されました。これは、現在の保険料基準額5,850円と比較すると約1.5倍、2,888円の増となります。

以上でございます。

○副議長(横田 誠) 小暮議員。

○19番(小暮博志) ありがとうございます。

令和22年度の時期に働いている生産年齢人口の国民の負担率がどのようになっていると想定しているのか、お聞きいたします。

○副議長(横田 誠) 健康医療部長。

○健康医療部長(川崎光子) 介護保険給付費の財源につきましては、約23%を第1号被保険者の保険料で、残りの約77%を国、県、市による公費及び第2号被保険者の保険料で賄っております。今後、65歳以上の高齢者の増加により、介護給付費も増加が見込まれる中、生産年齢人口は減少していくと推計されているため、介護保険制度を支える国民の負担は増えていくものと予想されます。

以上でございます。

○副議長(横田 誠) 小暮議員。

○19番(小暮博志) そうしますと、国民の負担額がますます増加すると予想される中、将来を見据えて介護保険者の給付費の削減を目指して活動する必要があるのではないかと考えます。

そのような中、介護保険事業者である介護予防サービス、居宅サービスや各種介護サービスの保険料に対し、サービスを受けている方からの反応はどのようになっているのか、お聞きいたします。

○副議長(横田 誠) 健康医療部長。

○健康医療部長(川崎光子) 介護保険に関し、電話等で様々な問合せをいただいておりますが、保険料に関するものは多く、市民の関心は高いと考えております。そうしたことから、第8期の介護保険料については介護保険の安定的な運営と被保険者の負担増の程度を勘案し、算定しております。

以上でございます。

○副議長(横田 誠) 小暮議員。

○19番(小暮博志) ありがとうございます。

介護給付費の削減には、介護を受けないようになる必要があると思います。そのためには健康で長く生活できるようにする必要がありますと考えます。

神奈川県政策研究・大学連携センターの「健康寿命延伸の施策と効果に関する調査研究」によりますと、福島県西会津町では高齢化率が42.1%と高く、脳疾患の死亡率が全国より1.767倍と高く、短命の町として知られていたとのことであります。そこで、10年をかけて食改善を中心とした保健、医療、福祉の三位一体でのトータルケアを進めると同時に、健康な体は健康な食べ物からを進め、脳疾患の死亡率を全国平均1.767から1.26倍へ減少させ、また1人当たりの医療費の低減効果を上げたとのことであります。

また、埼玉県坂戸市では女子栄養大学との連携で坂戸市民の健康づくりに関する連携協定を結び、認知症や脳梗塞等の予防に効果があるとされる葉酸の摂取する運動を市民10万人に健康栄養指導として進めた。その効果は、7年をかけた調査において介護給付費は埼玉県の1人当たりの平均より2万円、月約1,700円安いという結果を導き出しています。

栃木県保健福祉部の健康寿命（平成28年）の資料によりますと、佐野市の健康寿命は男性は14市中13位、女性は14市中12位と低い位置にあります。そして、栃木県内の健康寿命を最長市と比較すると、男性では下野市より2.5年、女性では那須町より1.73年短くなっています。このように見ますと、佐野市としては健康で安心して営むことができる社会の実現にさらに努める必要を思う次第であります。

ここでお聞きいたします。佐野市として介護保険事業と関係する健康寿命の延伸をどのように捉えているか、お聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 健康医療部長。

○健康医療部長（川崎光子） 現在本市でも、高齢化の進行により要介護認定者や認知症高齢者が増えていくことが予想されております。介護給付費の伸びを抑制し、また健康寿命の延伸を図るためには介護予防事業を充実させ、そこに多くの高齢者が参加していただけるようにすることが重要であると考えております。

以上でございます。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） ありがとうございます。

また、健康寿命延伸について、佐野市はどのように推進していくと考えているのか、お聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 市長。

○市長（金子 裕） 健康寿命の延伸を目指すには、市民一人一人の生活習慣の改善を図る必要があると考えられます。

施政方針質疑でもお答えしましたとおり、健康寿命佐野づくり推進条例の制定により、市民、事業者、地域団体及び行政がそれぞれの役割と責務を明確にし、どの世代の方々もご自身の健康に対する意識を高め、自主的に健康づくりに取り組むことができるよう進めてまいります。

以上です。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） ありがとうございます。健康で長く生きていけるすばらしい佐野市実現に向けてよろしくお願ひ申し上げます。

次に、2件目の新型コロナウイルスへの対応についてお聞きいたします。現在、新型コロナウイルス感染防止のため、いろいろな対策をなされ、感染防止に当たられていることに対し、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

佐野市におきましても、現在県版ステージ2.5、厳重警戒を5月29日から6月20日まで進めており、市民に対する協力要請、事業者、学校やイベント等にと広く協力要請がなされております。市民に対する協力要請として、県境をま

たぐ不要不急の移動を避ける、マスクの着用、換気を始め3密の回避や手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底、感染リスクが高まる5つの場面での注意、5人以上の飲食、飲酒やパーティー及びこれに類するものについては自粛する、その他5項目ほどとなっております。

佐野市において令和3年2月20日から5月19日までの1か月ごとの感染者数を見ますと、2月が24人、3月が44人、4月が30人であり、3か月で98人が感染しておりました。5月20日現在も感染者数の減少に向け、日夜努力中であると認識しております。

また、65歳以上の方の新型コロナウイルスのワクチン接種の申込みの案内があり、75歳以上は5月17日9時30分から、65歳以上74歳以下は6月7日9時30分から予約が開始され、接種も始まるとのことであり、接種が拡大していくと感染者が大きく減るものと期待しております。

そこで、お聞きしますが、ワクチン接種が今後順調に進み、感染者数が減少するまでの期間はどのような考えを持ってワクチン接種を進めていくのか、お聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 市長。

○市長（金子 裕） 新型コロナウイルスワクチンの接種は、国の方針に基づき高齢者、基礎疾患を有する方、高齢者施設等の従事者、60歳から64歳の方、その他の方の順に接種を進めていく予定であります。また、高齢者に続く枠の中で、警察や福祉施設の職員、学校、幼稚園、保育園の先生方などを優先して行ってまいります。今後もワクチン接種を希望する方へ安全に迅速に接種ができるよう、体制を確保していくことが重要であると考えております。

以上です。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） よく分かりました。ありがとうございました。

ここでタブレットを御覧ください。これは、厚生労働省の令和3年2月10日までの全国感染者数39万5,053人のうちの死亡に至る比率を比較してみました。

次に、図を拡大してみますというと、40代を1としますというと60代では男女平均で約15倍、80歳代では男女平均で123倍のリスクがあるということでもあります。これからも高齢者への早期ワクチン接種の必要性を理解できるところであります。

画面切り替えてください。このようなリスクを見ますと、高齢者のワクチン接種をなるべく早く進めることが死亡者数を減らすことにつながると強く考えます。

現状において、65歳以上の方のワクチン接種が少しでも早く終了し、65歳未満の方の接種が早く進むことを希望しますが、どのように進めていく考えなのか、お聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 健康医療部長。

○健康医療部長（川崎光子） 議員のおっしゃるとおり、高齢者の方については重症化のリスクが高いため、優先的に希望する方への接種を行っていきたいと考えております。

また、高齢者の方は持病をお持ちの方もいらっしゃいますので、かかりつけ医師の下で接種を受けられる体制を整備しております。

6月7日から65歳以上から74歳以下の方の受付が始まり、対象年齢が広がっていきますので、接種回数を確保し、市民の皆様へ情報提供を行いながらワクチン接種の早期完了を図ってまいります。

以上でございます。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） ありがとうございました。先ほど述べましたが、佐野市において2月20日から5月19日までの3

か月間の家庭内感染者数は合計で26人おり、平均して27%の人が家庭内感染を占めておりました。

ここでお聞きしますが、これらの家庭内感染者は感染者と知って同居をしていて感染したのか、あるいは感染者と知らないで同居をして感染したのか、傾向が分かりましたらお聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 健康医療部長。

○健康医療部長（川崎光子） 感染した場合の疫学的な調査は県が実施し、その方の個人情報など、詳細については市に提供されないため、どういった経過で家庭内感染が発生したかについてはまでは把握が難しい状況でございます。

以上でございます。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） 佐野市の3か月の家庭内感染者を調べてみますと、最初の人感染発見の3日後には85%の方が家庭内感染していたと見受けられます。家庭内感染者がいると知らないうちに家庭内感染が起きているのではないかと思います。この家庭内感染をなくすには、佐野市独自で自宅療養者向けハンドブックを制作し、感染防止に努められていることに敬意を示します。今後家庭内感染状況の多い中、一層の分析をし、対応策を進めていただけたら、家庭内感染も一層減るのではないかと考えます。

家庭内感染の一層の防止策をお聞きいたします。

○副議長（横田 誠） 健康医療部長。

○健康医療部長（川崎光子） 5月28日の県対策本部会議資料の中で示された感染経路の推移を見ますと、令和2年10月から令和3年5月26日公表分の期間において、感染経路が家庭、同居だった場合が30.4%でございました。

そこで、本市では4月24日より5月28日まで防災無線や広報車の巡回、佐野ケーブルテレビを通して市民への注意喚起を行い、日常においての家庭内の感染防止対策を呼びかけました。

また、現在では各課が作成する案内通知やチラシの空きスペースなどに感染予防の啓発文章を掲載し、より広く市民へ注意喚起を行っているところでございます。

今後あらゆる機会を捉えまして、感染拡大防止の注意喚起を行ってまいります。

以上でございます。

○副議長（横田 誠） 小暮議員。

○19番（小暮博志） ありがとうございました。

この家庭内感染を防ぐため、一層の対策の啓蒙や支援を期待し、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長（横田 誠） 以上で小暮博志議員の一般質問は終了いたしました。